

昆布ツアーの教育的価値について

羅臼町教育委員会自然環境教育主幹

金澤裕司

本モニターツアーは、その教育的価値に基づいて企画されたものである。教育上の意義について若干の考察を加えておきたい。

結論から言えば、本ツアーの持つ教育的な意義は非常に大きいと言えるだろう。

その理由は、知床半島における人の生活史を前面に出したツアーだからである。知床半島を紹介する際に「原始の自然」「手つかずの大地」などの表現が以前から用いられてきた。来訪者もそれを期待して知床にやって来ていただろう。たしかにそこには原生的自然環境は存在するのだからアピールの要素にはなる。

しかし、その一方で縄文からオホーツク文化を経てアイヌ文化に至る古代の人々の生活は言うに及ばず江戸期以降も人々の生活の場となってきた事実がある。

人々は知床の自然環境に適応しつつ現代の水産業に至る生産の系譜を知床に築いてきた。

近年、持続可能な開発のための教育（ESD）の必要性が広く認識され平成30年からの学習指導要領にもその視点が採り入れられた。これは学校教育に限られたものではなく広く社会教育、生涯学習にも必要な視点とされている。

特に急迫する地球環境の危機を考える時、一般市民がESDの観点に基づいた社会的な学習を行う機会が重要である。

本ツアーへの参加者が観光を楽しみつつ、その一方で知床への認識の幅を広げていたことは、同行していても感じられたし参加者アンケートの結果などからも明らかである。

したがって、このツアーの教育的価値は計り知れないほど大きいと考えられる。